

関東ブロックユネスコ活動研究会 埼玉大会に参加して

太田ユネスコ協会 中村 利光

関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 埼玉が、「原点に戻ろう!!もう一度心の中に平和のとりでを」といま問われる民間ユネスコ活動をテーマに掲げ、十月五日(土)・六日(日)の二日間に渡り、埼玉県越谷市で開催されました。

会場となった南越谷のサンシティーホールに、関東ブロックの全都五県から四十ユネスコ協会、百九十名ほどの会員が参加しました。次年度の開催県となる本県からも八ユネスコ協会、二十八名の参加があり、関心の高さを感じました。一日目は、開会式、基調講演、活動報告、交流会などがありました。

開会式前には、関東ブロックユネスコ都県代表者会議が開催されたり、オープニングイベントとして南越谷阿波踊りが披露されたりしました。また、おもてなしとしてホール入り口にお茶席が設けられ、花を添えていました。

基調講演では、イギリス出身の英語落語家ダイアン吉日氏のお話がありました。「世界はひとつ、友情と絆で結ぼう」を演題に、日本文化には多くの素晴らしさがあり、たくさんの外国人に伝えていくことなどを独特の話術で紹介され、会場から笑い声も溢れていました。

その後、日本ユネスコ国内委員より活動報告があり、国内委員会の組織

ESD やユネスコスクール、国内委員会総会や会議の様子が紹介されました。また、日本ユネスコ協会連盟より、寺子屋と書き損じハガキキャンペーン、ESD とユネスコスクールなどの取り組みが報告されました。普段は知る機会のない内容で、興味深く聞くことができました。

初日の行事が終了した後、交流会が開催されました。サククスとピアノのサウンドに耳を傾け、おいしい料理を楽しみながら、各ユネスコ協会の親睦と情報交



換が活発に交わされていました。二日目は、分科会と閉会式、エクスカーションが行われました。

第一分科会は、「かけがえない命と平和」の実践活動を取り上げ、越谷ユネスコ協会が「いのちの大切さ」をテーマに発表しました。小学校を対象に十年間続けてきた「いのちの大切さ講座」に関する実践で、子供たちとの対話や聴診器による心音の聴き取りで得た反応や成果などが報告されました。

第二分科会は、「世界寺子屋運動」を取り上げ、ひたちなかユネスコ協会が「ネパール教育支援から見えてきたこと」をテーマに、十五年間続けてきた学校造り支援の様子や成果を、また婦人学級支援や子供たちへの奨学金支援などを発表しました。さらに、日光ユネスコ協会が「カンボジア寺子屋訪問」をテーマに、書き損じハガキ回収の工夫や日本ユネスコ協会連盟との共同建設、寺子屋開所式参加の様子などを発表しました。

当日は、第二分科会に参加しました。そこで、各ユネスコ協会が特色のある様々な活動を実践している様子を学んだり、活発に質疑や意見が交わされたりする様子を見て、ユネスコ活動への気持ちを新たにすることができました。

第三分科会は、「ユネスコ活動の活性化、青年部と組織拡充・広報活動」を取り上げ、杉並ユネスコ協会が「青少年活動における大人と青年の関係作り」をテーマに発表しました。分科会参加者への問いかけを交えながら、ユネスコ子供



キャンプの運営と実施などに関する報告があり、各ユネスコ協会からも子供向け事業について紹介がありました。

閉会式では、主催者挨拶や各分科会の感想発表に続き、次年度開催県の挨拶が設けられました。群馬県の参加者全員がステージに上がり、研究会テーマや期日などを書いた横幕を前に、関口会長や須田実行委員長の挨拶が行われ、会場から多くの拍手をいただきました。

こうして、ユネスコ活動研究会が盛会の内に幕を閉じました。二日間通して研究会に参加したことで、実践内容の研修だけでなく、運営などの様子も学ぶことができ、自身の今後の活動を進める上でとてもよい機会となりました。